

第 1 回 (9/24) ガイダンスとイントロダクション

1. 授業担当者自己紹介

氏名： 榎本 環 (准教授)
専攻領域： 社会学 (社会意識、ホワイトカラー研究、労働・組織 etc.)
メール・アドレス： tenomoto@komajo.ac.jp
研究室： 10-716
オフィス・アワー：月曜日 13:00～14:30、火曜日 10:40～12:10
Anytime welcome !

私の社会的キャリアについてちょっと一言

2. “逆算”の発想：大学の4年間で学んでおくべきこと

実社会：

- ①
- ②
- ③

- (待っていても周りの人は何も教えてくれない、誰も助けてくれない)
- ←判断力、企画力、自己管理能力
-

「自分の可能性を伸ばす」「成長する」ということ

=

「そんなの無理!」「自分にはできない」「大変そうだからやめとく…」→その時点でオワリ

3. 事務連絡

本科目について (本年度)

「現代社会の論点」：学群人間文化学類人間関係専攻 必修科目 (2年生)

「現代社会論Ⅱ」：人文学部人間関係専攻 選択必修科目 (3～4年生)

教室変更、履修制限などの可能性

出席カード

4. 授業概要

若者世代をとりまく社会環境について近年の論評やメディア情報をいくつか取り上げ、論点や問題提起を整理しながら解説するとともに、受講者間で議論・検討を行います。皆さん自身が日常生活

のなかで身近に接している経験や社会的現象を手がかりに、そこから、「社会について考察する」という学的思考へと展開する方法を実践的に習得してもらうことを目指します。毎回、授業の後半に意見交換・ディスカッションの時間を設ける予定です。

【到達目標】

- ① 読むこと（精確な理解）
- ② 考えること（理論的思考）
- ③ 話すこと（対話的コミュニケーション） の3つのスキルを高めることが具体的な学修目標。

5. 授業スケジュール

(途中で修正する可能性もあります)

- 第2回(10/01) 論理トレーニング
- 第3回(10/08) 規範・道徳・公共性
(10/15 りんどう祭代休)
- 第4回(10/29) 教育 1 ——校則と自由
- 第5回(11/05) 教育 2 ——学びからの逃走
- 第6回(11/12) 「仲間以外はみな風景」
- 第7回(11/19) 窒息する友人関係
- 第8回(11/26) 自分らしさと個性
- 第9回(12/03) 社会への帰属と自由
- 第10回(12/10) 幸福について 1 ——選択と幸福
- 第11回(12/17) 幸福について 2 ——自由と幸福
- 第12回(12/24) キャリア形成とグローバリズム
- 第13回(1/07) 社会保障とコスト
- 第14回(1/14) 家族機能の変容
- 第15回(1/21) 総括討論
- 定期試験(1/29～2/04)

6. シラバスより関連事項

【授業開始前学習】

まさに皆さん自身の日頃の生活体験と問題関心が事前学習の起点となります。視野を広げ、社会問題や若者文化に関する話題について、ふだんから積極的にマスコミ情報をウォッチする習慣をつけておくことを勧めます。

【関連科目】

「社会学ⅠⅡ」で紹介される概念や視座は内容理解に役立つと思います。

【その他】

積極的な参加と発言を期待します。受講者諸姉の生活実感や柔軟な発想から、私自身も大いに学びたいと考えています。

7. 授業運営ポリシー

社会現象を理論的に考えることの知的面白さを伝えたいと思っています。できる限り、身の回りの具体例を示しながら、わかりやすい説明を心がけるつもりです。

＊ 受講マナーについて

8. 成績評価と採点基準

シラバス

「平常点（受講取組みの積極性）（60％）、期末レポート（40％）により評価します。」

↓

【出席状況】（配点 30％）。

＊ 注意：出欠についての考え方 ×出席してれば単位くる…

【授業参加の積極度】（配点 30％）

BBS への投稿回数・内容、授業中の発言や質問、提出物の提出状況などにもとづいて、授業参加の積極度を総合的に評価します。

【期末レポート】（配点 40％）

講義内容に関連するテーマを、各自の関心に即して自由に設定してもらいます（分量 3,000 字以上）。授業内外で吸収した知識をもとに、自らの思考を駆使して社会科学的に考え抜いた痕跡がどれだけ反映されているかの点を評価のポイントとします（たんなる感想文や、文献・Web からの引用の継ぎはぎでは低い評価となります）。

※ 提出期限を厳守してください cf. 社会生活における「期限」の重み

※ レポートが提出されない場合、レポート評点は 0 点となります

※ 学内内規により総得点（出席＋授業参加＋期末試験）が 59 点以下の場合、成績は「不可」となります

GPA 評価制度について

9. 授業 Web サイトについて

【授業 Web】

URL: <http://t-enomoto.la.coocan.jp/komajo/>

授業レジュメ（PDF ファイル）を、「現代社会の論点」のページに毎回、アップしておきます。

＊ 配布物のうち、文献からのコピー資料は保存ファイルには含まれません。ご了承を

この授業では「講義録画システム」も利用します（？）。欠席した場合は活用を。

【掲示板 BBS】

URL: <http://9021.teacup.com/tenomoto4/bbs>

スマホからもアクセス可能（ですが、PC からのアクセスを推奨します。理由…）

授業内容への質問・コメント、意見交換、授業へのリクエストに活用してください。

投稿の回数・内容 → 成績評価のポイントに換算

投稿の際は、ニックネームで。**学籍番号**を件名または本文中に必ず入力してください。

【Why BBS? : その目的】

- ① ガッツリ学ぶ（漫然と授業を受けるだけではダメ、レジュメ・資料再読、復習）
- ② 受講者相互の意見交換・相互啓発・理解補足
- ③ 公的コミュニケーションのスキル
- ④ 自己管理能力

plus, 理解度チェック（授業担当者）、授業へのフィードバック

10. テキスト・参考文献

【テキスト】

とくに指定しません。毎回、授業レジュメを配布する予定です。

【参考文献】

中西新太郎、2004、『若者たちに何が起きているのか』花伝社

内田樹、2007、『下流志向： 学ばない子どもたち働かない若者たち』講談社

浅野智彦編、2006、『検証・若者の変貌』勁草書房

文春新書編集部編、2008、『論争 若者論』文春新書

広田照幸編著、2008、『若者文化をどうみるか?』アドバンテージサーバー

諏訪哲二、2005、『オレ様化する子どもたち』中公新書ラクレ

本田由紀編、2007、『若者の労働と生活世界』大月書店

三浦展・上野千鶴子、2007、『消費社会から格差社会へ： 中流団塊と下流ジュニアの未来』河出書房新社

速水敏彦、2006、『他人を見下す若者たち』講談社現代新書

後藤和智、2008 a、『「若者論」を疑え!』宝島社新書

後藤和智、2008 b、『おまえが若者を語るな!』角川 one テーマ 21

本田由紀ほか、2006、『「ニート」って言うな!』光文社新書

その他、授業を通じて随時、紹介します。

11. イントロダクション

12. 次回の予告

10月1日 論理トレーニング

* 次回までに教務課掲示板を必ずチェック!

以上

【授業 HP】 <http://t-enomoto.la.coocan.jp/komajo/>

【BBS】 <http://9021.teacup.com/tenomoto4/bbs>

実社会

① きわめて多数の人びととの協働活動

esp. 異なった年齢層・世代構成

② 「仲間」でもなく「アカの他人」でもないという関係性

③ 選べない関係性

そのために、いま、大学の4年間で

- 自分から動く

（待っていても周りの人は何も教えてくれない、誰も助けしてくれない）

ex. 確定申告

- 自分で決める

←判断力、企画力、自己管理能力

- コミュニケーションのスキル